2020・4・11　HBCイースター礼拝説教梗概「主イエスの復活の恵みを味わう」(イザヤ55：6～13)

「茨の代わりに、もみの木が生え、おどろの代わりにミルトスが生える。これは主の記念となり、絶えることのない永遠のしるしとなる。」(イザヤ55：13)

きょうは主イエス・キリストのご復活の記念日です。主の復活は大きな希望です。それは私たちの救いのためであり、新しいいのちに生かされることになるからです。

イザヤ書55章6節には呼びかけのことばには悔い改めの勧めと、それに伴う赦しが約束されています。そして主なる神のあわれみの大きさ、赦しの豊かさが8節と9節に語られています。

10節では天から降る雨や雪が地上に働いて多くの恵みをもたらしてから天に戻って行く様子が描かれています。「そのように、わたしの口から出るわたしのことばも、わたしのところに、空しく帰って来ることはない。それは、わたしが望むことを成し遂げ、わたしが言い送ったことを成功させる。」。この神のことばとは何でしょうか。このことばこそキリストであるといえます。ヨハネは福音書のはじめに「初めにことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった。この方は初めに神とともにおられた。」「ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。私たちはこの方の栄光を見た。父のみもとから来られたひとり子としての栄光である。この方は恵みとまことに満ちておられた。」と語っています。そして「わたしが望むことを成し遂げ、わたしが言い送ったことを成功させる。」ということこそ、7節で語られた赦しと救いの御業ではないでしょうか。そのキリストの御業によって、罪によって失われていた栄光が回復されるということでしょう。12節は復活の喜びの賛美につながります。救われた者たちの喜びです。

13節には栄光の回復があります。「茨」は地を覆ってほかの作物が育つのを妨げます。もみの木は常緑樹ですから1年中緑が絶えません。いのちのシンボルです。そして「おどろの代わりにミルトスが生える」とあります。、おどろというのはとげのある雑草ですから、それは地がのろわれた状態を指しています。ミルトスは香りのある葉や花で有名な常緑の灌木で、その実は鎮痛作用があると言われています。また花はお祝いの時に装飾として用いられるのだそうです。ですからイザヤ55：13の表現は、のろいに代わって祝福が臨むということです。

それでは主イエス・キリストの復活は私たちにどのような恵みを与えてくれるのでしょうか。

コリント第一15章は、キリストと私たちの復活について、その霊的な事実を教えています。20節「しかし、今やキリストは、眠った者の初穂として死者の中からよみがえられました。」ここで初穂というのは畑にある麦の穂の一部です。キリストが眠った者の初穂としてよみがえられたということは、眠った者たちの先駆けとしてよみがえられたということです。

私たちは死んだら天の御国に迎えられてお終いということではありません。復活は私たちの霊魂が朽ちることのない新しいからだを着せられることです。また、ピリピ人への手紙3章20節21節には、「しかし、私たちの国籍は天にあります。そこから主イエス・キリストが救い主として来られるのを、私たちは待ち望んでいます。キリストは、万物をご自分に従わせることさえできる御力によって、私たちの卑しいからだを、ご自分の栄光に輝くからだと同じ姿に変えてくださいます。」と書かれています。これ、すなわちキリストの再臨の時に成し遂げられる、私たちの救いの完成です。私たちが復活するときには、今、私たちが着ている肉のからだは失われます。そこにある罪の性質も失われて、私たちはイエス・キリストのように完全なものとされます。今、私たちは、なおも罪ある肉のからだを着ています。ですから、ときには罪を犯すこともあります。そのときには罪を悔いるだけではなく、キリストを見上げて、そのような自分が、キリストとともに十字架につけられたのであるという救いの信仰の事実を確かにしましょう。

私の父の古い友人が死の床に就いていました。その方は次のような絶筆を残されました。『散るもまた　恵みなりけり　花七日　　春浅き朝に』桜の花が咲きかけた時期に詠まれた歌です。まさにキリストの救いに与って、復活の希望を確かに持っておられた信仰の人の姿を思います。

55章の終わりには、私たち人間の罪によって汚され、のろわれた世界が、キリストの十字架の贖いと復活の御業によって回復される様子が晴れやかに歌われています。主イエス・キリストの復活をお祝いいたします。